浮遊

時は滞り
見晴るかすは何の彼方か

空しきは死の故ではなく
生は私から遊離して肩を並べている

眠りの中にこそ、陽光よ温めよ
仮初の大気に呼吸したこの身を

私は逝こうとする者である
歩みを共にしたこの生の手を掴んだまま

その時彼は言うだろう
「我は不滅なる者なり
我に生もなく、死もまたなし
我は生から生へと放浪うのみ」と

私は応えるだろう
「私と共に不滅であるがいい
私こそは生もなく死もない者なのだ
私こそは生から生へと放浪う者なのだ」と

時は滞り
見晴るかすは何の彼方か

空しきは死の故ではなく
そも私の中に生は無し

眠りの中にこそ、陽光よ温めよ
その中でこそ私は生とまぐわう者なれば

(1992.2.22)